

旭ヶ丘キリストの教会
主日礼拝順序
2023年7月2日

司会：千田俊昭
奏楽：千田祥子

黙 禱		一 同
讃 美※	讃美歌56「七日の旅路」	一 同
主の祈り※	(聖歌表扉または讃美歌564番をご覧ください)	
讃 美	讃美歌527「わが喜び」	一 同
教会学校	絵本「イエス様のいやし」	牧 師
讃 美	讃美歌493「罪の淵に陥りて」	一 同
聖書朗読	使徒行伝5:1-6	
奨 励	使徒行伝の福音(第15回)	牧 師
主 題	「祝福に導く聖霊」	
讃 美	讃美歌500「御霊なる聖き神」	一 同
献 金	献金と感謝の祈り	
聖 餐		
頌 栄※	讃美歌546「聖なるかな」	一 同
祝 禱※		牧 師
来週の箇所	使徒行伝 5:17-32	

※印のところでは御起立下さい。

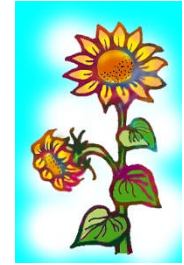
- ☆ はじめて集会においでの皆様。心から喜び、感謝してお迎え申し上げます。しかし、初めての方に無理な勧誘をするようなことは、一切いたしません。むしろ、そっとしておきたいと思うわけです。その態度を冷淡や不親切と誤解なさらないで下さい。
- ☆ 私たちは何派にも属さないクリスチャン個人の自由な交わりの教会です。聖書を学び、キリストに信頼し、キリストが与えてくださる神の義を何より大事にし、信じる者同志が兄弟姉妹として受け入れ合う群れです。
- ☆ 献金は神への感謝として、各自が自由意志で行うものです(2コリ9:7)。入り口に献金箱がありますので、どうぞご利用下さい。
- ☆ キリスト教について、あるいはどんな質問でも、いつでも遠慮なく牧師にご相談下さい。
- ☆ 第二礼拝後、軽食を用意してありますので、お時間のある方はどなたでも、ご自由にお召し上がり下さい。
- ☆ 二階に教会図書がありますので、どうぞご利用下さい。

旭ヶ丘キリストの教会 ニュース



【今週の歩み】

- 7/2(日)聖日礼拝
- /3(月)
- /4(火)
- /5(水)10-12:OBS75x
- /6(木)10:00聖研
- /7(金)
- /8(土)13-16子供オプハウス



【祈りの課題】

- ① 家族の救いのために
- ② 礼拝に来れなかった人々のために
- ③ 教会学校の子供たちが救われますように

【静思の時の為に】

ヘブル書 Devotion 第5回
「信仰の成熟をめざして」
(ヘブル5:8-14)

ヘブル書の主題はキリストが私たちの罪を贖う大祭司であると示すことです。第五章でこのことを語り始めるのですが、10節で一旦中断し、後に第七章から詳しく述べられます。その理由は11節に「この方について、私たちは話すべきことをたくさん持っていますが、あなたがたが聞くことに対して鈍くなるからです」とあります。ヘブル人への手紙が説教原稿だったという意見によれば、説教者はここで、言わば一旦寄り道をしても、「信仰の成熟」について語る必要を覚えたこととなります。

そして「信仰の成熟」は次の第6章で語られるので、今日の箇所はいわばその大切な橋渡しの所です。信仰者なら誰でも成熟した信仰を持ちたいと願うはずですが、「私の信仰はまだ幼く…」と謙遜に自分の事を言うことがありますが、他人から面と向かって「あなたの信仰は幼い！」と言われれば侮辱を感じるものです。だから、説教者の次の言葉はその場にいた人々のみならず、私たちにも耳痛く響きますね。「あなたがたは、年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神が告げたことばの初歩を、もう一度だれかに教えてもらう必要があります。あなたがたは固い食物ではなく、乳が必要になっています。乳を飲んでいる者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。」(12,13節)

厳しい言葉です。しかし、パウロも言っています、「兄弟たち、考え方において子供にならなさい。悪事においては幼子でありなさい。けれども、考え方においては大人にならなさい」(コリント第一14:20)。

では、一体どうすれば良いのでしょうか。説教者は彼の言葉に先立って、キリストの姿を描き、キリストに学ぼうと呼び掛けているのです。「キリストは御子であられるのに、お受けになった様々な苦しみによって従順を学び、完全な者とされ、ご自分に従うすべての人々にとって永遠の救いの源となり、メルキゼテクの例に倣い、神によって大祭司と呼ばれました。」(8-10節)思いがけず病気になったり、予期せぬ出来事に見舞われることがあります。もしかしたら、それは新しい世界への旅立ちかも知れないのに、私たちは歓迎できず、周りも裁きの心で見えてしまいがちです。

「世の人はしばしば嘆いて言う、世の中のことは思うようにならないものだ。しかし私は思うようにならないがゆえに感謝したく思う。私は本当の幸福、本当の歓喜が、思わざる難儀、願わざる悲しみの内から生まれだたものであることを知っている。そして思うことの思うようになったとき、かえって不満があり、倦怠があり、空虚のあったことを知っている。」(三谷隆正)

「我々の計画が成功し、我々の目的が達成される場合、それは最も恐るべき地獄である」
(カール・バルト)

「苦しみにあったことは、私にとって幸せでした。それにより、私はあなたのおきてを学びました」(詩篇119:71)という御言は苦難を乗り越えた詩人の成熟した信仰を表しているがゆえに、古来、多くの人々を励まし続けているのです。